

KOEDA

< 239号 >

2007年11月18日

「ディアスポラによる世界宣教」

(ヘブル 11:8~16)

武田 恒義

今週はサンクスギヴィングの週です。その由来については説明の必要がないほどよく知られています。私たちもこの日をあの清教徒(1620年にアメリカに移住してきた Pilgrim Fathers と呼ばれる人々)たちと同様に、収穫を神に感謝し、お世話になった人々に心から感謝し喜びを分かち合う機会としたいものです。

実はヘブル11:13に見られる「寄留者」は King James 版聖書には「ピルグリム」と記されています。信仰の故に母国を離れて渡ってきたピルグリム即ち寄留者たちと、パレスチナ以外の地に離散しているユダヤ人たち、即ちディアスポラと呼ばれる人達が重なって見えて来るのが不思議です。何時の時代でも新しい共同体、国、世界はディアスポラによって始まり、形成されて行くのではないかと思います。

さて、ディアスポラの元祖はアブラハムです(創世記 12:1~4, ヘブル 11:8~16)。彼は同じ約束を相続するイサク、ヤコブと共に天幕生活をしました。ヤコブ(イスラエル)の12人の子供の中の1人であるヨセフは、兄弟達により奴隷としてエジプトに売り飛ばされるという不幸な状態で、ディアスポラとなりました。しかし、ヨセフは後でイスラエルの民を救うこととなります。また300年後には、やはりディアスポラとなってエジプトの王宮で育てられたモーセによって、イスラエルが奴隷の地エジプトから救われることとなります。後にエリメレクとナオミ夫婦が飢饉のた

めに二人の息子を連れてモアブの地に行きディアスポラとなり、そこで更なる不幸に見舞われ、エリメレクと二人の息子が死んでナオミが残されます。残されたナオミは嫁のルツと共にベツレヘムに戻ります。そこでルツはボアズと結婚しダビデ王の曾祖母となり、あらゆる国民、民族の救い主イエス・キリストの系図の中に組み込まれることになったのです。

新約聖書にはディアスポラという言葉が出てくるだけでなく(ヨハネ 7:35、ヤコブ1:1、1ペテロ 1:1)ディアスポラによって各地に伝道が拡がって行った事実を見ることができます。パウロ、バルナバ、マルコ、ステパノ、ピリポたちはヘレニズムの世界に散らされていたディアスポラです。その人々はヘブル語やアラム語でなく、ギリシャ語を使用していたので、彼らのために、エジプトのアレキサンドリアでBC3世紀中頃にギリシャ語訳旧約聖書を作りました。このように、人も聖書も状況も大きな御手によって導かれ、全てが世界宣教のために備えられて行ったのです。

ディアスポラは、ただ単に宗教的理由から散らされたり、自ら離散したというのではなく、経済的理由、社会的理由からも離散したようです。今日、世界は色々な理由から外国に離散しているディアスポラで満ちています。神の救いの歴史で証明されてきたように、神は今後もディアスポラによって、世界宣教を成し遂げようとしておられると信じます。「私たちの国籍は天にある」のですから、この地上では旅人であり寄留者、すなわちディアスポラなのです。クリスチャンはどここの国で生まれ育ち、どの国で生活しても世界宣教のため、神の国からこの地に散らされている者なのです。私たちはそのような神の国の視点で、在外日本人伝道と在留外国人伝道の両方を考えなければならない時代に生かされているのです。これがディアスポラによる世界宣教ということです。私たちは、神の国から送り出されたディアスポラです。そしてまた神の国を目指して帰る旅人、ピルグリムであることを覚えて感謝しましょう。(ルカ 10:20)

<今年のご感謝>

皆様感謝します！！

武井 恵

本当にここ1年、たくさんの神様の祝福をいただいていることに感謝します。3回の目の手術も、無事に終わりました。もうこのまま見えなくなるのかなと思っていた右目も何とか少しは見えるようになり、感謝です。一度、全く右目が見えなくなったことで、目が見えることのありがたさを学びました。これからは、見えることのありがたさを大切にしていかなければと思います。このことを教えていただけたことに感謝します。夏のキャンプの折には、下血して緊急入院までしてしまいましたが、皆様のお祈りで、すっかり元気になりました。あの時は、みんなにご心配していただいてなんて私は幸せなんだろうと、つくづく感じました。元気になってから、バタバタと暮らして心配していただいた皆さんにゆっくりお電話していませんでしたが、私は元気で～す。皆様ご心配かけました。日本から、香港から、そして、オレゴンからも、お電話ありがとうございました。

そして、先月から、新しい家に恵まれ、広がって精神的にもゆったりとでき、本当にこんな家を神様が与えてくださったことに感謝します。今年の冬は、大学の入学以来、離れていた上の息子が、仕事で数年、ピーチトリーシティに来ることになって、アトランタに住むことになりました。年末には久しぶりに妹夫婦も遊びに来ます。この家でなら、みんなが泊まって、ゆったりと過ごせそうです。人の集まることのできる家に、これからたくさんの人を受け入れることのできる家になりたいと思っています。

そして、去年から始めたセンターに、人が集まってくださっていることに、そして、私をそこで用いてく

ださっていることに感謝します。特に、このセンターに関しては、神様のご計画はずいぶん前から、ずっと準備されていたのではないかなと思うこのごろです。

アメリカに来て、最初の日は何んとか元気に学校へ行った子供達が、次の朝、目を覚ますなり、大泣きしながら学校に行きたくないと言ってベッドにしがみついていたのが、もう15年も前の話になります。それから、上の子供がノイローゼのようになってしまいました。そしてそれがやっと落ち着いてからは、アメリカ人の友人がカウンティのESOLのオフィスに勤めていた関係で、現地校で日本人の子供で学校で何かあった時によく呼ばれました。まだ小学校1年生の子供が学校で毎日もどしているの、と言われて学校に行ったことがありました。始めは、回りの子供らを必死で見ながら、一生懸命真似をしていたその子が、周りの子供や先生の英語の話しかけに、見る見るうちに顔が真っ青になり、気持ちが悪くなっていました。その子供のお母さんとお話すると、毎日楽しいと学校に行っていたとのお話でした。その子の下には2歳くらいの弟と、生まれたばかりの赤ちゃんがいらっしゃって、お母様に心配かけまいと何も言わずにがんばっていたようでした。こんな小さな子が、と健気で胸が詰まる思いをしました。それから、先生が誤解をしていらっしゃったり、いろいろな子供達が本当につらい思いをしている機会に触れ、何か私にできることはないかなと考えることが多々ありました。

ESOLの教師として現地校で働いていた時もありましたが、英語の全くわからない子供達の気持ちはよくわかるので、精神的に支えることができても、アメリカ人でもなく発音も悪く、英語力も不足している私が、教師をするということにジレンマがあり、教師をしてもいいんだろうかと落ち込むことも多々ありました。なぜか自分の受け持ちのクラスには、何か言葉とは違う問題があるのではないかと思われる生徒が多く居て、SPECIAL EDUCATIONの勉強をはじめ

ことにしました。ADD, LD を持った子供達のことをはじめて学びました。それまで、誰でもがんばればできるのに、がんばらないからできないんだという気持ち私が私自身にあったのが、なんて身勝手であったかをそこで学びました。LD を持った子供達は一生懸命勉強していました。お母様たちも毎日必死で、一緒に勉強されていました。でも、どうしても読めない子供、どうしても算数のできない子供、どうしても落ち着けない子供達がそこにはいました。ニコニコしながらも、**Ms. Takei, please, help me!** と私に頼んでくる子供達は必死でした。このときの1年間の実習で私が学んだことは、子供一人一人が、その子のペースがあり、それを知って支えていってあげる先生の大切さでした。

こうして、いろいろなことを学ばせていただいた私が洗礼を受ける時を与えていただき、いったい私は何をすべきなんだろうと悩んでいた去年、手術後のひどい目の痛みの中で、日本人のためのセンターを作ろう、こちらで苦しんでいる子供達、お母さん達の憩いの場所を作ろうと、突然思い、これは神様のご計画かもしれないと、真剣に考えるようになった時に、神様がその道をどんどん開いてくださったのです。そして、確信を持ち、とうとうセンターを開くことになりました。今、振り返っても、こんなに突き進むことができたのは、神様のお導きだったなと思います。今、センターでたくさんの子供達が汗だくになって、うれしそうにはしゃいでいる姿を見ていると、オープンしてよかったなとしみじみ感じます。この短い間に子供達が変わりました。お友達とうまく遊べなかった子供らが、日々、いろいろと自分で学んでいって、どの子も、楽しそうにお友達と遊ぶようになりました。我慢すること、お友達をかばうことができるようになりました。がんばらなくてはいけない時は一生懸命勉強をし、遊ぶ時は思い切り遊びます。現地校でつらかった時も、ここでみんなと遊んでまた元気になって家に帰ることもあります。お母様たちも、他のお母様たちに話を聞いてもらい、精神的にずいぶん支えを感じてらっしゃ

ることと思います。英語も、アメリカ人の先生と一生懸命勉強しています。日本語で歌を歌い、本を読んでいます。このオフィス、この場所をみんなに提供することが、子供達の未来に大きな影響を与えるかもしれない、神様ってすごいなあ...と思う今日この頃です。

ただ、思っている以上に出費は多く、いまだに毎月赤字、赤字です。心配しながらも、日用の糧は神様からいただけるだろうという平安をいただき、なぜかやっぱり食べていくことには困らずにすんでいます。願わくば、来年は、赤字が消えますように、また、このセンターが益々、神様に用いられまますようにお祈りしています。



春 美 Stevens

感謝にあたって、まず私と家族が4年間住んだ伊万里の教会の末瀬牧師先生を初め、会員の皆様のお陰で私の信仰が支えられ日本での4年間の教会生活が守れた事を心から感謝いたします。そして、5年ぶりにアトランタへ戻った私達一家を以前と変わらず温かく受け入れてくださったウェストミンスター日本人教会の武田牧師、牧実御夫妻ならびに教会会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

日本からの引越しも一段落つき、アトランタでの生活を再び始める事になりましたが、そんな日々の中、順調に事が進まず、時に不安を感じる事が多々ありますが、そんな時に聖書からの主の言葉やクリスチャンの兄弟姉妹からの励ましの言葉や祈りが今の私の心の支えとなっています。

久しぶりのアメリカの地で、これから迎えようとする11月の感謝祭に主に感謝を初めとし、多くの人や事に感謝し喜びつつ大切な家族と共に迎えられる事を祈っています。

<自己紹介>

西端 淑

皆さん、西端 淑です。昨年の半ば頃から寄せて頂いています。私の家族は全員シンシナテイ、オハイオにおります。息子は28歳、娘は25歳です。家内と私は来年3月に結婚30年を迎えます。愛犬はブラックラブのサニー君（在Ohio）です。

家族は1984年に初めてアメリカNYへ、それ以来23年間ずーとオハイオです。私は1971年大学生としてやはりオハイオ スプリングフィールドに参りました。思えばジョージアに来て1年7ヶ月です。単身赴任でSUZUKI自動社 Romeでお金を勘定する仕事が与えられております。シンシナテイでは、ザンバテストや単立福音教会に行っておりました。

娘は今年の初めにアメリカ市民になりました。我が家は25%（1/4）米国市民という事です。ピアニストで音楽家です。また高校の時にエルサレムに語学留学をしヘブル語を勉強した事もあります。名前は真理、OH Dayton ピアノ学科卒業後突然そううつ病になり、2年半真っ暗なトンネルの中を歩いてやっと最近よくなってきました。

息子、基はNYのHoughton大学の宗教学科卒です。今は人事専門のコンサルティングの会社に勤めております。彼はMusicianでピアノ、ギター、ドラム、シンセサイザーで作曲などが趣味です。また、バスケット、サッカー、フットボール等 Sportsman です。今は夜間

のXavier 大学院でMBAの勉強をしております。彼は我々が経済的に大変なことを知り自分の給与を家に入れてくれます。また私が離れているので家内と娘の良き助け手となっております。

私の家内は邦子です。高橋 和子さんと同じ教会、松見が丘キリスト教会の出身です。いつも私の影となり常に忠実に仕えてくれます。この2年半真理を24時間/7日看病して参りました。東京出身で、兄和夫が一人おります。両親は我々がNYに赴任した直後なくなってしまう孫の成長をみる事もなく、大変申しわけなく思っています。家内とは松見ヶ丘教会で初めて会いました。私は最初はSONY本社経理本部で7年半勤め、家内は島田特別養護施設で重症心身障害者の世話、その後高田馬場にある点字図書館で経理の仕事を。その時に知り合い結婚しました。子供は日本生まれです。

日本で6年、米国で波乱万丈の23年です。この期間中に中古車の床はぬける、借家の地下室は地下水が入りこんでプールの様になり、車のエンジンが爆発する、大竜巻が家をかすめる、2006年にリストラにあう。前年2005年に家内に原因不明の病が皮膚に、娘がそううつ病に、その時加古川に住んでおられる正木 茂牧師から、使徒行伝27章 20、25節の紹介を受けました。“全く最後の望みも絶たれようとした時に。。。” “ 元気を出しなさい。。。”と。なんとリストラの最終日が2006年3月31日、SUZUKIに決まったのがその前日でした。SUZUKI入社後知ったことですが24歳の娘のそううつ病をMedical保険で補ってくれる事、リストラした会社はカバーしないこと、月2,000ドル以上の医療費です。

まだまだ、現在進行形の試練（単身生活）があります。でも一人ではありません。家内邦子とはげましあって、感謝することを見つけたすようにしています。紅海を2つに分けた神様が私達とともにいらっしゃるの

で、なにが来ても大丈夫だと信じてます。これからも
よろしくをお願いします。

藤 田 慈 也

みなさま、こんにちは。この7月から家族4人揃っ
て、ウェストミンスター日本人教会の交わりに入るこ
とができ、大変うれしく思っております。また、我々
を暖かく迎えてくださり、皆様に感謝申し上げます。

そして何よりこのアメリカでの生活のチャンスを与
えてくださり、また、慣れない地において戸惑いや不
安を覚えることが少なくない中であっても、私たちの
生活をここまで守ってくだり、これからも導いて下さ
る主に感謝したいと思います。今回の小枝への寄稿に
あたり、妻の里栄子が自身の証と家族の紹介を用意し
てくれましたので、私は日本で教会のことを簡単に
書かせていただくことにします。

私たちは東京都国立市にある日本キリスト改革派国
立聖書教会から参りました。私の母教会は千葉市にあ
る稲毛海岸教会、妻の母教会は埼玉県草加市にある草
加松原教会でしたが、結婚した 2000 年にこの国立聖
書教会に転会をしました。国立聖書教会は、毎聖日の
礼拝出席者が 30 名くらいのとても小さな教会ですが、
非常にアットホームで暖かい雰囲気の教会でした。

また、教会の運営については、北米 CRC という団体
から財政面での援助を受けており、これまで「伝道所」
という形での運営でしたが、昨年4月に、引き続き
期限付きの財政援助は受けるものの「教会」として独
立するという節目を迎えました。そのような中での私
たち4人のアメリカ転勤でしたので、私たちとしては
アメリカでの新生活に対して期待を抱く一方で、国立
聖書教会の今後を考えると後ろ髪を引かれる思いでの
渡米でした。しかし全てを御心のままに導いてくださ
る主がこの教会の試練をも恵みに変えてくださる信じ、
遠いアメリカの地から日本の私たちの小さな出身教会

のことを祈っております。

さて、妻との出会いですが（もしかして、そこまで
書かなくていいですか？）、私たちが所属していた日本
キリスト改革派では何年かに一度、全国の各教会から
青年が集う修養会が開催されるのですが、里栄子とは
その修養会で出会いました。そう、忘れもしない静岡
県の修善寺町で開催された修養会です。初めて会った
ときに私はビビビと来たのですが、後日、妻に聞いた
ところ彼女のほうは全くの「無関心」だったとか。そ
れがどうして今に至ったかは、この紙面では到底書き
尽くせませんのでやむなく諦めることとします。

私は、アメリカに来て6ヶ月、家族は3ヶ月が経ち
ました。家族が到着した当初は「大混乱」でした。今
でもまだ、日々、戸惑いの連続です。そんな中で皆様
に励ましをいただき、いろいろ手助けをいただしてい
ることに本当に感謝します。どうぞ今後もよろしくお
願いいたします。



藤 田 里 栄 子

今年の7月27日に主人より2ヶ月遅れで息子二人
とともに Kennesaw に引っ越してきました。教会では
皆さんにいつも暖かく声をかけていただき主にある交
わりに加えさせていただき感謝しています。

私は小さいころ性格があまり明るいほうでありませ
んでした。周りの子から「暗い」という理由でいじめ
られたこともあり。自分に自信がなく誰かがこ
ちらを見て笑っていると自分が笑われているんじゃないか？と不安になることも度々でした。

私はクリスチャンホームに育ったわけではなく大人

になるまで教会には行ったことはありませんでした。けれど心の中には神様がいて神さまだけは自分のことを分かっていると思っています。

今から15年くらい前（大学1年の時）、埼玉の南越谷という駅の駅前で若い女の人から「アンケートをお願いします」と声をかけられました。「自分に自信がありますか？」「自分の性格を変えてみたいと思うことはありますか？」など私にとって非常に興味深い話ばかりされました。「性格は変えられますよ。私たちの自己啓発のサークルに来てみませんか？」と誘われ今考えるととても安易でしたがすぐにそのサークルに入会してしまいました。当時はさほど有名ではなく私も世間知らずだったので知らなかったのですがそのサークルは統一協会でした。そこには担当のカウンセラーがいて親身に話を聞いてくれてとても居心地よく感じました。そして毎回ビデオで統一原理という講義を観ました。統一原理というのは聖書を基にしており「神が世界を造り今も私たちを愛している」といった内容でした。なぜ自己啓発のサークルでこういう話をされるのか不思議でしたが、もしかしたら私が信じていた神様がここに導いてくれたのではないかと思いどんどんのめりこんでしまいました。

そこに集まった人たちは私と同様に神様を求めて来たわけではありませんでしたがこの教を毎日毎日、時には徹夜で何度も聞くことでこれこそ真理なのだと思っていくようでした。統一原理の一番の間違いでありキリスト教と異なる点は「キリストが十字架にかかった事は失敗でありキリストの生まれ変わりが教祖である文鮮明だ」ということです。そして文鮮明が指示したさまざまな条件（課題のようなもの）をこなすことで人間（自分や家族、世界中の人々）の罪を減らすことができると教えられました。

私は神様に愛されていることを教えられ心は喜びでいっぱいになりました。同時に私が今まで罪を犯し神様を悲しませていたと知りショックを受けました。

そして神様の悲しみを減らすためにはどんなことでもしようという気持ちになりました。条件の内容は主に伝道でしたが印鑑や壺を売る靈感商法も行われていました。私は当時まだ研修生という立場だったのでそのような厳しいことはしませんでした。長くいる人たちはこの条件をこなすことで人類の罪が許されるのだと純粋に一生懸命でした。そして統一協会では自分の意思で行動することも罪だったので長くいればいるほど上からの指示がなければ行動できない状態になっていくようでした。

家族には統一協会に入っていることは絶対に秘密にするように言われていました。けれど度々そをついて泊りがけのセミナーに参加したり不審な行動が多くなり両親は心配でいろいろ調べていたそうです。ちょうどその時期、山崎浩子さんの合同結婚式の話がテレビなどで騒がれていて「うちの子ももしかしたら・・・」と統一協会からわが子を救う会というところに相談して牧師（当時、日本基督教団北本教会の古谷健司先生）を紹介され私を脱会させるための準備をしてくれていました。

脱会に至る経緯は書くと長くなるので簡単にしますが最終的には家族が私を助けてくれました。私はウィークリーマンションに監禁状態にされ「脱会するまで家族みんなここから出ないで話し合う」と言われました。最初私はどうやったら逃げられるかということばかり考え全く口を利きませんでした。自営で店を経営し、ほとんど休みなく働いていた両親が店を休み続け、姉も妹も私のために一緒にいてくれたのにそれも迷惑に感じました。けれど数日経ちここまでしてくれる家族のために少しは話を聞いてもいいかなという思いになりました。統一協会について話し合いを始め、徐々にマインドコントロールから解かれていきました。話し合いを始め、一週間後に古谷先生と会って話を聞き脱会する決意ができました。結局私は統一協会には5ヶ月間しかいなかったのですが、神様の導きにより本

当にものすごい経験ができました。

脱会后古谷先生から「リハビリのため教会に来てみませんか？」と言われ時々礼拝に行きましたが何も信じる気持ちにはなれませんでした。しばらくして古谷先生は愛媛県の山越教会というところに異動され私は全く教会には行かなくなりました。ただ、統一協会が間違いだったなら私が信じていた神様もないということなのか？ということがずっと気になっていました。

数年後再び教会に足を運ぶ気持ちになったのは、三浦綾子さんの本を読むようになってからです。三浦綾子さんは自伝「道ありき」の中で、戦後何も信じる気持ちになれず苦しんでいる時、キリストに出会い生きる希望を与えられたことを告白しています。私ももう一度本当の神様を求めてみようという気持ちになりました。そして自宅から一番近い教会（日本キリスト改革派草加松原教会）に通い始めました。説教を聞き、聖書を読み牧師の風間義信先生（現在江古田教会の牧師）が私の疑問に丁寧に答えて下さいました。統一協会では何か条件をこなさなければ神様に愛されることはできないと教えられましたが、本当の神様はただ自分の罪を認めイエス様の十字架を信じれば愛してくれることを知りました。そして今から 11 年前にイエス様を心に受け入れ洗礼を受けることができました。

教会に行ってみたくと一度も思ったことのない私がクリスチャンになれたのは、神様の御業はとしか言えません。今では日々の生活に追われ神さまの導きを忘れてしまうことが多いのですが、この機会に小枝の紙面で証ができたことを感謝します。

<子供たちの紹介>

★ 祐喜

- ・2002年4月20日生まれ(5歳)
- ・現在 Cobb County にある Pitner Elementary のキンダーガーデンに通っています。
- ・昨年までは「電車おたく」でしたが今年から仮面

ライダーなど戦いもの大好き少年になりました。

★涼

- ・2006年7月1日生まれ(1歳)
- ・祐喜のことをなぜか「ぼっぼあ」と呼んでいます！
- ・アメリカに来てからたくさん歩けるようになりました。

<アメリカ赴任について>

私は英語が苦手な運転も自信がなく、子供の学校のことなど不安で仕方なく、昨年アメリカ赴任の話が出てから「どうかアメリカ行きがなくなるように」と祈ってきました。けれどとうとうアメリカ行きが現実となり、これだけ祈ってきてこうなったからにはこれが御心なのだどと覚悟し準備を進めてきました。日本にいる時点でこちらの教会に通うことは決めていたので、武田先生ご夫妻に連絡しいろいろと相談にのっていただきました。本当に感謝しています。

アトランタに到着した直後は、時差ぼけや疲れから私も子供たちも気持ちが不安定になり絶望的な気持ちになりましたが、神さまが一つ一つの不安を取除いて下さいました。祐喜は元気に学校に通うようになり私も少しずつ運転ができるようになりました。英語はまだまだ上達する気配がありませんがどうにか生活できることが分かりました。

アメリカ生活で唯一楽しみにしていた教会生活も無事に毎週礼拝を守ることができ皆さんに親切にしてください感謝しています。まだまだ分からないことが多く皆さんにお世話になると思いますが、これからもどうぞよろしくお願いします。



<受洗にあたって>

美 幸 ハ ム

キリスト教に関わるようになったきっかけは、まったく不純な動機です。私が2004年SCに来てまもなく近所の日本人の方に月一度の聖書の勉強会があるので一度一緒に行きませんか？といわれて宗教？と一歩ひいたのですが、勉強会の後は日本食のランチをみんなで食べるのよとの言葉に行ってみようと思ったのです。それが良子エリスさん宅で毎月武田先生夫妻を迎えて行われているチャールストン集会だったのです。その集会で初めて聖書を手にししました。毎月集会に参加するようになって、徐々にですがもっとイエス・キリストのことを知りたいという気持ちになっていきました。

そして2005年に日本に帰郷したとき、最初の自分自身の聖書を手に入れることが出来ました。しかしその時点ではまだ半信半疑でした。その後も集会に参加して先生のお話を聞いていたある月の集会のとき「足跡」という詩のお話を聞きました。(苦しい時には神様が背負って歩いて下さるという意味の詩)

私が日本に居た20代最後の頃、何事もなく平穩無事に過ごしていた時にお医者様から重大な病の宣告を受け、この世に神様なんかいないという思いをその時から心の片隅にずっと持ち続けていました。けれどもそのお話しを聞いた時、そんな気持ちからそれ迄開けようとしなかった心の扉がスーッと開いたような気がしました。それが私がイエス・キリストを信じていこうと決心した時だったと思います。

それからアトランタに移転しこの教会に通うようになり、礼拝で説教を聞くたびに、自分の為の話のような気がし、心に響いてきました。二人の子供たちのことも考えて、私と共に子供たちにも幼児洗礼を授けて

頂きたいと思い洗礼を願い出しました。

しかしクリスチャンとしての歩みを始めたばかりで、クリスチャンとしてのあるべき姿からはまだまだ程遠い気がします。けれども日曜日に教会で礼拝をして新たな気持ちとなってまた一週間を始める、そして少しずつではありますがクリスチャンとしての生活を心身共に身につけていきたいと思っています。どうぞこれからよろしくお願いします。



<祈り>

順 子 クラーク

私の母は大変信仰深いクリスチャンでした。私達姉妹が少女のころ、いつも聖書の話をしてくれました。また祈りの人でもあり、私達は朝日が出る前、6時ごろいつも祈ることで、きまって一日が始まりました。朝夕の母の祈りがあったために、今私も深く深く神を愛することができることを信じています。自分で旧約・新約聖書をいくたびも読み、母の喜びが分かかってきました。聖書は救われし者の生き方、今世の最高の教えを人々に教えています。世界を創ってくださった父なる神のひとり子主イエス・キリスト様に、悲しい時もうれしい時も、祈りのうちに喜びを与えられます。祈りは神との話し合いの交わりであり、クリスチャンにはなくてはならないことだと思います。絶えず祈る経験が祈りの力となり、良きクリスチャン生活が出来ることが信じています。申命記6章4節をはじめとして聖書の中にはいく度も、「心をつくし、精神をつくし、主なる神を愛せ」と記されています。「我はありてあるもの」(出エジプト記 3章14節)と記される神、あ

われみに富み給う父なる神様に寄りすがり、残る人生を生きたく思います。私の愛する御言葉は、ヤコブの手紙4章8節「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたに近づいて下さるであろう。」箴言8章17節「私は、わたしを愛する者を愛する、わたしをせつに求める者は、わたしに会う。」

<ブルーリボンの祈り>

川 田 み よ 子

もし自分の子供、兄弟姉妹、親といった肉親が突然行方不明となり消息がわからないまま何年も過ぎていったとしたら・・・そして、それから20年も経過して北朝鮮に拉致されていることが判明したとしたら・・・考えただけで恐ろしくなります。

その現実の只中におられる横田早紀江さんは、「この事件」が起こったことによってキリストに出会われ、クリスチャンとなりました。「この事件」は1977年11月15日新潟で起こりました。当時13歳だった横田さんの長女めぐみさんが学校からの帰宅途中に行方不明となり、その後消息がわからないまま20年もたった1997年に北朝鮮に拉致されていたことが判明したのです。2002年9月には北朝鮮が公に拉致を認め5人の被害者が日本に帰ってこられました。しかし、未だにめぐみさんの消息はわかりません。

めぐみさんや拉致被害者全員の救出を願って、「ブルーリボンの祈り会」が東京のいのちのことば社チャペルにおいて行われています。毎月60名前後のクリスト者が集まって熱心な祈りがささげられています。祈りの輪は広がっており現在日本国内で20ヶ所、海外で10ヶ所において祈り会が持たれています。

アトランタではいのちのことば社の多胡会長から

「ブルーリボンの祈り会」のお話を伺ったことがきっかけとなり、私の家庭で祈り会を始めました。

海外在住であっても日本の拉致問題に関心をもってくださいの方が増えてほしいと願い続けておりましたところ、この度教会の祈祷会として「ブルーリボンの祈り会」を月一回持っていただけることになりました。願いをかなえてくださった神様に心から感謝しています。11月1日に早速第一回目の祈り会を持ちました。日本での祈り会のテープを毎月送っていただいておりますので、その中から横田早紀江さんがお話される近況と西岡力先生（東京基督教大学教授、拉致問題に精通されている）から現在の状況をお聴きしました。そして、

10月25日に日本で行われた拡大祈祷会での具体的な祈りの課題について心を合わせて祈らせていただきました。

「私は、いつの日かめぐみが帰ってきた時に、母はこういう中であって、このようにすばらしい神様の御手によって守られてきたということ、多くの方々に祈られていたことを伝えたいと、この記録を残すことにしました。」と、早紀江さんは「ブルーリボンの祈り」の本の中でこのように記しておられます。信仰へと導かれたお証しにも心を打たれ、胸が熱くなりました。まだお読みになっておられない方には是非読んでいただきたいとお薦めいたします。拉致問題に関心を持たれた方、祈り会のテープをお聴きになりたい方、また、ご質問などがありましたら私までご遠慮なくお申し出ください。拉致問題が解決する日まですべてを神様におゆだねして、希望を持って祈り続けていきたいと願っています。

「アトランタブルーリボンの祈り会」連絡先

川田 みよ子 電話番号 770-321-0738

スポットライト



今回は、“エミばあ”の愛称で親しまれているエミ・ギビー姉妹のご登場！当教会の古株ながらも、いつも元気で若々しい姉妹です。

Q ちゃきちゃきの江戸っ子と伺っていますが、東京はどちらでお育ちになりましたか？

A 池袋です。

Q 御兄弟は何人ですか？ どのような御家庭だったのでしょうか？ 小さい時、どんなお子さんだったのでしょうか？

A 5人です。

普通家庭だよ。上が2人男で、私が生まれたから、家族は嬉しかったのよ。でも肺炎ですごく弱かったから、3歳の時かな、強くなるように、って頭丸坊主にしたのよ。せっかく女の子だったけど、兄弟と一緒に男の子みたいに育てられたの。自分を男と思ってたみたい。「僕、僕、」って言ってたのよ。でも学校行くのに「僕、僕、」って言ってたらだめだから、母が「私」って言うのに苦勞したみたいね。

そのせいかね、それ以後はずっと健康に育ったのよ。お兄ちゃんと一緒にチャンバラごっこしたり、

おてんばだった。

Q お名前のことですが、最初にエミーさんのお名前を聞かれる方は大抵日本名(例えば恵美さん)と聞いてまいがちです。本名は道子さんとのことですが、それがどうしてAmyになったのでしょうか？

A アメリカに来て、ニックネームが必要だったので、主人がつけたのよ。確か”~ once I love Amy..”とかっていう歌があって、主人がよく歌ってたのよ。

Q エミーさんはおそらくこの教会の中では一番滞米年数が多いと思います。こちらにいらして何年になりますか？

A 53年

Q どうしてアトランタに来られたのでしょうか？またその当時のアトランタはどんな感じでしたか？

色々お聞かせ下さい。

A アトランタに来たのは結婚したため。

その頃は、田舎よ。田舎。

私は都会で育ったからこっち来てびっくりしたのよ。アメリカって言えば華やかなハリウッドを想像していて、都会だと思ってたからね、びっくり

した。虫の鳴き声で眠れなかったのよね。

はじめは寂しかったよ。誰もいなかったからね。

白人と黒人がはっきり分かれて、人種差別のある時代だったからね。

Q ご主人と最初に出会われたのは？ 御結婚に際して御家族の反対がありましたか？

A 私が20の時、東京で。

そりゃ家族は反対したわよね。「捨てられたらどうするの？」とかね。国際結婚で両親が賛成する人なんかいなかったよね。

アトランタはすぐく田舎で、ホームシックで日本に帰りたいかった。来る前に母が、「一人でアメリカで泣いていないで、日本に帰ってきなさい、切符代は出すから、」って言うてくれてから、手紙を書いたの。でも母は、子供(上の子がいたからね)を置いてくるんだったら、切符代を出してあげる。って言ったのよ。子供がハーフだから、日本に来ていろいろ苦労するし、かわいそうだって。一人だったら帰って来てもいい、って言ったのよ。でも父は、「アメリカの土になる覚悟でいったんだらう。遊びにくる家はあるけど、帰ってくる家はない。」って。私は「冗談じゃない」って思った。そういう事があって、私は子供のためにこのアメリカで頑張って、良い家庭を作って行こうと決心したのよ。それがなかったら帰ってたわね。

Q 国際結婚について御自分の御経験から今の若い方々にどんなアドバイスをなさいますか？

A お互いが愛情をもって、クリスチャンであることが大事だよ。

Q 現在の御家族構成をお聞かせ下さい。

A 子供は男三人。孫は3+2+1の計6人。ひ孫は4人。でも孫もひ孫ももう一人ずつ増えるのよ。主人は95年に召された。もう12年になるね。早いね。

Q ご主人がご御存命の頃なさっていたお仕事についてお聞かせ下さい。

A ソファの張替えとかカーテン作りとか、室内装飾。カスタムメイドね。そしてそのオーダーを私が縫ったの。本当は不器用でね。日本にいた頃は針に糸を通すだけで目が回ってたけど、生活のためにね。

Q 現在は毎日どのように過ごしておられますか？

A 家の前に末息子の家族が引っ越してきたから、その孫と毎日遊んだりしているわね。その他は健康のために、サウナに行ってプールで泳いだりしているかな。

Q エミーさんの庭には、お花がたくさんあったり、野菜作りなどもお上手、手芸も色々されますよね。趣味は何でしょう？

A 下手の横好きっていうの、そういうの。多種多様。何でもやってみたいの。ものにならなくても、一応熱中するのよ。デコレーションケーキもやったしね。シルクフラワー。文化刺繍。キャベッジパッチベイビー。何でも一度は試してみたい。

Q キリスト教との出会い、またこの教会との出会いについてお聞かせ下さい。

A それはね、うちの主人の影響。うちのがクリスチャンファミリーで育ったから。始めは主人と一緒に、子供連れて教会に行っていた。主人は、始め

はバプテスト教会で若い頃受洗したの。でもこっ
ちに来て、土曜日のセブンデイズに行くようにな
ったの。その影響が強くてね。日本語の聖書も何
もなかったけど、でもうちのセブンデイズで受
洗するって言うんで、主人が受けるんだっいたら
いだろう、と思って私も一緒にセブンデイズで洗
礼を受けたのよ。

友子バーンさんに出会ったのがきっかけね。彼女
がこの教会の話を楽しそうにするのよ。で日本語
もしゃべれるしね、ここの教会に行くようになったのよ。

- Q エミーさんの支えとなっているみ言葉を教えて下さい。
又、好きな賛美歌を教えてください。
- A 今一生懸命テサロニケ勉強してるでしょ。“絶えず祈り
なさい、喜んでいなさい。”
いつくしみ深き友なるイエスよ。

- Q 次のスポットライトをどなたに当てましょう？
- A 真智子さん。あの人もね。息子さんと娘さんを立
派に育ててね。



<Mobile Mission Trip に参加して>

土井安幸

10月13日と14日の土曜日から日曜日にかけて、アラバマのモービルのほうへミッショントリップをする機会が主から再び与えられました。Mobile Universityには多くの日本人留学生がおり、数名の日本人学生クリスチャンも居ます。キャンパスの近くには、主に日本人学生への伝道に重荷を持っておられる夫妻がおり、去年彼らの家を借りて、初めてモービルへのミッショントリップが行われました。この度も、同じ夫妻が家を借してください、この集会を持つ事が出来ました。モービルには日本人学生にしては、比較的多くのクリスチャンがいて、また最近二人の兄弟姉妹が最近救われましたがまだ日本人教会はありません。(しかし、去年から武田牧師夫妻による日本人集会が4ヶ月に1度ほど開かれるようになったと伺い感謝です。)このトリップは、彼らと共に日本語の御言葉や賛美を通して、主の恵み、栄光、そして主への感謝と一緒に感じ分かち合うこと、また彼らを励ますことを目的として、去年と今年行われました。

今回のモービル集会も、もちろん同じ目的もあったのですが、主から与えられた大きな目的は、日本人教会が無い、言い換えれば、弟子訓練される場が少ない彼らの霊的成長、そして彼らが彼ら自身の日本語での主にある交わりをこれから持って行き、成長して行けるための架け橋になれば、との事で行われました。

限られた時間の中で土曜日の午後と、日曜日の午前中の集会を持ちました。土曜日は未信者の日本人学生への伝道が主な目的で、日曜日はクリスチャンだけでクリスチャンとしての霊的成長のために行いました。土曜日に神様は多くの学生を呼んでくださり、ジョーさんというミシシッピの神学校で勉強されている方を、この集会のために立ててくださいました。ジョー

さんは未信者にもわかりやすく、日本で有名な映画を使い、死んでしまう事がわかっていながらも私たちのためにこの世に来て、十字架にかかって下さった、イエスキリストの愛がわかりやすく伝わるメッセージをしてくださり、来てくださった学生達も“興味深かった”“もっと知りたい”“考えさせられた”と主の栄光が少しでも伝わった様子で、本当に恵みであり感謝でした。その中で、モービルのクリスチャンの子達も、去年とは違い、ただの参加者ではなく、キリスト者として主の愛を伝える者として、集会に来ているということで、主からの学びの恵みが多くあったのではないかと思います。

日曜日には、リックウォレンのThe Purpose Driven Lifeにも記されているS.H.A.P.E.(Spiritual gift-霊的賜物, Heart-心, Ability-能力, Personality-性格, Experience-経験)についてみんなで分かち合うワークショップを持ちました。上記の事柄を分かち合う事で、主が私たちをどのように用いられているか、用いようとしているかを、主からの恵みを感じるとともに、今一度考える時間を持つ事が出来、これからの主のための働きに自分たちに何が出来るのかを考えさせられた時間でもありました。このようにこの集会を通して主から多くの事を学び考えさせられ、なにより、日本語で主を賛美し、日本語でメッセージを聞き、同じ日本人クリスチャンとしていろいろな事をシェアする事が出来た事が何よりの恵みであり、モービルのクリスチャン達にとっても成長出来る恵みの時間だったのではないかと思います。それでも、まだまだ主からの課題は沢山あり、まだモービルには日本人教会が無いので、本当にこれから彼ら自身がクリスチャンとして成長して行くための交わりを持って行くために、祈りが必要です。本当に感謝な事にこの集会を持つ前から、彼ら数名が集まり日本語でバイブルスタディーをする集まりを始めました。本当にその集会がこれからモービルの地で祝された彼らの弟子訓練の場となり、福音が述べ伝られる場になって行く事をお祈りしています。

本当にこの度、主がこのモービル集会をする機会を与えてくださった事感謝ですし、このために主が立ててくださった兄弟姉妹、そして彼らが主のために働いて、また彼らと共に主のための働きを一緒に出来た事が何よりの恵みであり感謝でした。本当にこれからもモービルにいる兄弟姉妹のために祈っていきましょう。

＜モービル伝道＞

村 林 友 子

今回のモービル伝道旅行に参加できたこと、本当に神様からの恵みだったなあ、と思います。準備、計画の段階で少し関わった事。キーボードの奉仕。アトランタからのみんなとの移動。現地についての交わり。神様がいろんなものを見せてくれました。また、今振り返ってみると、全てを通して神様の存在のもとに私たち一人一人が置かれていたなあ、と思います。アトランタから参加した一人一人。モービルから参加した一人一人。それぞれに神様から導きを受け、その場に置かれていたと思います。

個人的にすごく心に残っているのは、若い”今時“の学生が、キリスト教にあまり抵抗なく、引く事なく、結構ガツガツと質問などをしてきたことです。自分の存在意味や、幸せって何なのか、そんなものを探している若い世代が多い事を今までになく実感しました。モービルで伝道しているメアリーさんも、ここ2年、日本から来る学生が今までになくキリスト教に対してオープンで、飢え乾いている、と言っていました。自分自身、積極的に伝道するタイプではないのですが、日本の若い留學生が乾き求めている姿を見ていて、伝えたい、という気持ちが湧いてきて、自分が日本人として生まれ、アメリカに来て救われた、という事実が、神様の確かな計画の中のことなんだ、と実感しました。 少ない日本人クリスチャンとしての使命というか、神様から伝えられた愛と救いを、しっかりと継承し

ていく責任をはじめて感じることができました。

今回の伝道旅行で、神様の日本人に対する愛も感じました。日本人伝道に重荷をもっているジムさんとメアリーさん、そしてマイクさん。日本人が救われることを、いったいどれだけのクリスチャンたちが、日々祈っているんだろう。。。そして、この集会のために与えられた一人一人の存在。神様はいったいどんなに前からこの集会のために準備されていたんだろう。。。そんなことを思うと、神様の愛の深さにただ頭が下がる思いです。

同じ言語を話し、同じ文化で育った兄弟姉妹と奉仕、交わりを持つ中で、みんなが励まされ、御霊のあたたかさに満たされた集会だったと思います。奉仕する者も、参加する者も、みんながそれぞれに神様からの祝福を受けたと思います。日本語で一緒に賛美し、日本語で一緒に御言葉を聞き、こんなに“日本人同士”ということだけで、特別な絆が生まれるのかあ、と、再確認しました。

これからもアトランタ、モービルに集うこの小さな群れが、御霊によって動かされ、神様の御手の中で成長して行く事ができますよう、お祈りいただければ幸いです。



<日本人牧会者セミナーとところどころ報告>

武田 牧実

・去る10月15日から19日まで、Philadelphiaにおいて<日本人牧会者セミナー>という集いが開催されました。このセミナーはプリンマー日本語教会を牧会しておられる李先生に重荷が与えられ、先生の熱心により何ヶ月も前から準備がなされ、全てが整えられて実現に至ったものでした。講師は日本から小川国光先生（福音自由教会）と趙先生（日本同盟キリスト教団）、そして国内からは主人が招かれました。夫婦共に参加することという条件に従って私も同行しました。

*会場は Proclamation Church という私たちの教会と同じく PCA に属する教会で、日本人伝道に非常に理解があり、礼拝の場所を提供するだけでなく李先生にもあらゆる面で協力的であるとのこと。今回のセミナーのためには最近新築されたばかりの新しい部屋の数々を初めて使わせて下さったのだそうです。間もなく完成する日本人教会専用の礼拝の場所も見せて頂きましたが、講壇もついでいて明るいこじんまりとした素敵な部屋でした。

*参加者は合計で36名。文字通り東西南北の諸州から、又日本から参加された方々に加えてヨーロッパはミラノから内村先生御夫妻がお見えになっていたのにはびっくりしました。かねてよりミラノ宣教に重荷を持つ岩崎建男、三恵子夫妻より伺っていましたが、まさかお会い出来るとは思っていなかったののでうれしいサプライズとなりました。何人かの先生方とは再会を喜び合い、或いは初対面の御挨拶を交わしたり、お名前だけは存じ上げていた先生方を確認したりして初日の一時を過ごしました。

* 「起きて食べなさい。旅はまだ遠いからだ。」

(I 列王記 19:7) <燃え尽きたエリヤには身体
の休息と霊的チャレンジが必要でした。牧会者に
霊的チャレンジと身体
の休息を提供するセミナー
です。>と頂いたファイルの表紙に記されてあり
ました。一日3回の講義と2回の分科会があり、結
構詰め込んだスケジュールでしたが、合間にパイ
プオルガンの演奏(参加者の中にパイプオルガ
ン奏者がお二人もおられた)を聞く時間など
も設けて下さり、李先生の御配慮を感じるこ
とが出来ました。

* 3人の講師が交代で行った講演は、それぞ
れ教えられるところがありました。小川先生は「
教会形成と世界宣教」という大きなテーマを
取り上げられましたが、最初の講演の第一ポ
イントを<家庭生活の刷新>という、一見テ
ーマとは無関係のような感じのするところ
から導入されたことに非常に興味を覚まし
ました。聖書には神の家族の宣教の展開が見
られること、家族とは神の宣教細胞であり、
世界の神支配の印であるということに深く
覚えさせられたことです。続いてアジアの
危機とチャレンジの中での日本の教会形成。
そして教会形成と世界宣教について学ぶ
ことが出来ました。

* 小川先生御夫妻が宣教地インドネシア中
部のジャワで経験された恐ろしい出来事につ
いて伺いました。暴動が起きて暴徒に取り
囲まれ、まさに生きるか死ぬかの瀬戸際に
立たされ、子供さんたちを抱きかかえて必
死の祈りを捧げられたというお証しです。
「私たちの伝道なんて、なまっちよろいね」と
主人と語り合ったことです。

* 趙先生の講演を通して神の主権、神の御
心(摂理)に従う姿勢について再確認の必要
を覚えさせられました。伝道をする者とし
て、人間主義思想(自己中心)に陥らない
ように注意すること、また神との個人的な
交わりの必要、即ち祈りとデボーション

について特に強調なさいました。御自分
の教会で行っておられる弟子訓練、スマ
ール・グループ、デボーションなどによる
信徒教育を、どのように行っておられる
かの具体的なお話があり、大変参考にな
りました。

* 趙先生夫妻もまた愛の宣教者です。10
数年前に日本人伝道に召され、日本語も
おぼつかないまま来日されたそうです。今
は日本人も顔負けする程、流暢な日本語
を話され、日本人にも出来ない程の大
きな働きをしておられます。また韓国の
先生としては初めて同盟教団の理事にな
られました。川崎において開拓された教
会は160人ほどの教会に成長し、徹底し
た信徒教育を行っておられます。現在
は川崎駅前に多目的ミニストリーに用
いる新会堂を建築中です。

* 主人は<海外における日本人伝道>を
テーマに、もう皆さんは何度も聞い
ている<ディアスポラ>について話しま
した。ディアスポラ日本人だけではなく
世界の国々にいるディアスポラ〇〇〇
人への、その国の人の言葉による伝道
の大切さを語ったと思います。

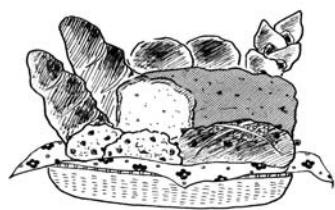
* 木曜日は一日リラックスの“Fun Day”
でした。朝から特大レストランのバッ
フェで食べたり、アーミッシュの居住
地を通り、学校の子供達の姿を垣間見
たり、<天地創造>のミュージカルを
観賞したり、夜はチャイニーズのバッ
フェで食べたりと十分に楽しませて
頂きました。

* 今回のセミナーに参加して最も感謝
したこと、最も感銘を受けたこと、最
も不思議に思ったことは、韓国の方
々の日本人の救いに対する熱意と、
日本人の魂に対する愛の心です。こ
のセミナーのために、こんなにまで
労して下さった李先生をはじめ、
近隣の韓国の教会のご好意(韓国
料理を出して下さったり、運搬の
ために教会のヴァンを出して下さ
ったり)に感謝の言葉もありません。
かってひどい仕打ちを受

けた日本に、伝道のために今韓国からの奉仕者がたくさん行っておられる事に驚かされます。いや日本だけではなく、ヨーロッパにおいても韓国の教会が日本人伝道に重荷をもって働いて下さることです。実際ミラノの教会が出来たのも、そのような働きに負うところが多いと伺っています。先日来られた福迫先生が牧会しておられる Vancouver の教会も近くの韓国人教会が日本人伝道に協力して下さっているとのこと。韓国人クリスチャンは、いわば“恨みと憎しみを越えた愛”を表して下さっているのです。私達は感謝の思いをもっと強くしなければならぬと思わせられました。

*各地からの同労者とお会いし、話し合い、祈り合い、共通の悩みや問題や重荷、そして喜びや祈りの課題を分かち合うことが出来て感謝でした。私達は決して孤軍奮闘しているのではないと感じることができました。

*李先生、そして秀江夫人、そしてプリンマー日本語教会のご婦人の方々、神学生の方、朝早くから夜遅くまでの御奉仕を心から感謝致します。3度3度のお食事、とてもおいしかったです。アメリカ人教会の方々もホームステイを引きうけて下さったとのこと。皆様に神様の豊かなお報いがありますように。



<アトランタに里帰りして>

バンクーバー日系人福音教会
牧師 福迫 徹也

「というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン」

主の御名をほめたたえます。新婚旅行以来11年振り、そして2年数ヶ月の滞在以来14年振りの今回のアトランタ訪問は、私にとってのスピリチュアル・ジャーニーとなりました。私の外見は変わりましたが、武田先生御夫妻の変わらないお姿とエネルギーも主に感謝します。更に素晴らしい新会堂を見ることが出来、これはまさに主の奇跡の御業の30年間に及ぶ積み重ねがあったことを感じ、主の大いなる御業をほめたたえます。今回の訪問で最も恵まれたのは、やはり礼拝でした。最初の賛美の時に急に昔の数々のことを思い出し、涙が止まらなくなってしまいました。感謝が溢れ出てきたのです。説教ができなくなるのではないかと心配になる程泣き続けていました。これはいけないと思い祈ったら涙の源がスーッとかれて全く泣くことなく説教をし終えることが出来ました。神様っているんですね。御教会で礼拝するのも「これが最後」と思ってメッセージを語りました。しかし、主のみこころなら、又おうかがいすることになるでしょう。

<300人教会を目指して>

今年2月に行われた私の属するバンクーバー日系人福音教会の教会総会では、教会の将来のビジョンの一つとして「300人教会への成長」ということが話し合われました。私はこれまで牧師になってから、教会が礼拝出席者や受洗者の数を強調するのは、教会形成が間違った方向へ向かう危険性があると思い、数につ

いては意識的に触れないようにしていました。(Ⅱサムエル 24:1~7 ダビデ王が行った人口調査の罪)そして「数が増えれば増えたで良し。しかし、増えなくても、それはそれで主のご計画の中でよし。」とそんな思いで伝道、牧かいに携わってきました。しかし同時に教会形成に関わり、教会について学んでいく中で数の大切さを教えられ、「やっぱり数も大事である。」という思いに変わってきました。

神様が人間に語られた最初の命令は「生めよ。ふえよ。」(創世記 1:28)でした。そして、洪水によって全ての生き物を滅ぼされた後、ノアと彼の息子たちに言われた最初の言葉も「生めよ。ふえよ。」(創世記 9:1)でした。これらの言葉のNIVの訳は“Be fruitful and increase in number”となっています。つまり、神様は神を信じ、神に従い、神のみこころを行う人々の数がこの地上に増え広がることを命令しておられるのです。これは人間の墮落後も変わることがありませんでした。

このことを新約聖書の視点で見ると、「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。」(マタイ 28:19)「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ 16:15)という主イエス・キリストの大宣教命令になるでしょう。主イエスは「すべての人をクリスチャンにせよ」とは言わずに「全ての人に福音を伝えなさい。そして、主を信じ救われた人をキリストの弟子とせよ。」と言われたのです。

主イエスが命を捨ててまで私たちを救い、キリストのからだである教会をこの地上に建て上げさせたのも大きな理由は、福音宣教にあるはず。ということは、これは教会がどこにあってもいつの時代でも意識していなければならない主からの最も大切な命令であるはず。例えば、バンクーバーには日本人の数が3万~3万5千人はいると言われていますが、この大宣教命令を実行していくためには、数百人のクリスチャンではとても達成できません。少なくとも、5

千人から1万人のクリスチャン(人口の20%~30%)が必要になります。そのためにも、現在の私たちの教会の礼拝出席者は90~100人ですが、これを10年以内には「まず日本人人口の1%である300人を目指そう」と話し合ったわけです。

1年間に20名ずつ増えれば達成できる数字ですが、ここ2年間毎年10名以上の受洗者が起こされ、多くの転入者が与えられているときに、主にあつて達成される数であると祈っています。

今回11年振りにアトランタを訪問する事が出来て、私自身多くの恵みを受けたことを神様と武田先生ご夫妻、教会の兄弟姉妹に心より感謝しています。今回の訪問は私にとって素晴らしいスピリチュアル・ジャーニーになりました。主が御教会を30年の間、導いてくださり、この間に多くの日本人が福音を聞き、信じ受け入れて救われ、キリストのからだなる教会につながりました。新会堂と熱心に主を礼拝する方々と交わり、30年の教会の歴史の中で自分もここで救われ、成長させていただいた恵みを思い起こしました。そして、御教会が更に人数的に祝福され、バンクーバーと同じくやがて300人教会(アトランタの日本人人口の5%へと成長する教会であると感じました。海外日本人教会の使命として、日本にクリスチャンや求道者を送り返すという大切な働きがあります。アトランタは特にその使命が強く、私が教会生活をしてきた15年前の時から現在までに80~90%の方々が帰国しています。それにもかかわらず、60名から70名の熱心で忠実な聖徒が集められ、牧師夫妻に協力し献身的な奉仕がなされていること、主が200名収容の新会堂、100台駐車出来る土地を与えておられることを考えるときに、主が必ずこの教会を300人教会に建て上げられると信じ祈ります。

「イエス・キリスト・・・

ヨハネ福音書による」(1)



山崎 順治

牧師職を退いても、主に仕える道を歩むという志を定年制が採択されても抱きつづけてきました。75才で帰国しましたが、思いがけない動脈瘤手術のため直ちにその志を果たすことはできませんでしたが、この小枝に続けて書かせていただき、私自身が聖書を学ぶ生活がつづけられたので、武田先生と皆様にとっても感謝しています。

ペテロの生涯の次はパウロにしようかと考えました頃に、カルビン神学校での留学をおえ帰国した芦田高之牧師が昨春、千葉県の新浦安伝道所に就任され信徒の方々と開拓伝道に従事しているので、お手伝いのできればと考え、定期的な集会奉仕を願い出て役員会の承認を得、月1回、聖書講座「キリストの生涯」を06年12月以来、始めました。

その講座では4福音書から主イエスの誕生から順を追って講義しています。その講義を「小枝」に連載すると「ペテロの生涯」ノートどころではなく、元氣な間に終わるかどうかわかりません。計画をもって事を始めるのですから、ヨハネ福音書にしぼってイエス・キリストを語ろうと決めました。

* * * * *

私がそう考えたのは、ヨハネ福音書が伝道的な書だという点です。この福音書の第1章の冒頭部分は難しと言われたりしますが、ヨハネ自身は、「あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また信じてイエスの名により命を受けるためである」と執筆意図を明かしています(20:31)。イエスを信じるために十分なことを書いた。それは永遠の命を受ける

には、イエスをメシアと信じるほかに道はないからです。ヨハネは、主イエスの奇跡を選択して書いています。主の教えのすべて、奇跡のすべてを書こうとしたわけではありません(21:24, 25)。神の遣わされたメシア、それはナザレのイエスです、と信じるのに十分なだけのことを書いたという、ヨハネの言葉から私は伝道的だと理解しています。

それに、主イエスの公生涯が足かけ3年、AD28年初め頃から30年4月までと、今日受け入れられて語られる資料はヨハネ福音書です。またユダヤ祭儀・暦に言及するのは、この福音書の特徴です。後述しますが、旧約聖書とイエスの来臨について、単にメシア預言の引証と成就という観点だけでなく、神の啓示によるモーセにはじまる旧約宗教(ユダヤ教とは別)に基づいて、イエスがキリストであると語ることが神の福音だからです。

いま一つ、ヨハネが奇跡の記事を記すのは、その御業が印であって、それはイエスご自身が誰であり何者であるかを確証する出来事として選択されています。

また、共観福音書のように側近の使徒たち中心に登場させるのではなく、他の使徒たちも登場することも見逃せない、この福音書の特徴です。そのことは、登場する使徒の薫陶訓育を通して、主がご自身を明らかにされるので見逃せないのです。では、ヨハネのキリスト証言に注目することにしましょう。

* * * * *

新共同訳聖書の最初の聖句・創世記1:1は、「初めに、神は天地を創造された。」という有名な言葉です。天地も我々もまだ存在しなかったときも、神は存在しておられました。その神は、私たちが創造し、神のみが存在された永遠を想うように導かれました。

弟子ヨハネは、そんな想いから「初めからあったもの」で、「わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て、手で触れたもの」を伝えようとして、「御父と共にあったが、わたしたちに現れたこの永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証しし伝えるのです」と第1の手紙の冒頭に書いていますが(1ヨハネ1:1

～3)、その文言は、彼の手紙に限って記したのではなく、ヨハネの福音宣教のすべてを貫いていた聖なる情熱だったと、彼の福音書の冒頭の表現を眼にしたときも、心に響いてきます。

使徒ヨハネは、自らの名を伏せて「(主の)愛する弟子」「イエスの愛しておられた弟子」と表現しましたが、これを今まで私は謙遜といいますか、どちらかと言うと、消極的・否定的な捉え方に傾きがちでしたが、むしろ主キリストご自身のわたしに対する愛を言い表したいという強い思いだったと受け止めたい気持ちに変化しました。それは福音書、書簡、黙示録、彼が書いた文書すべてから伝わってくるものです。

* * * * *

ヨハネ福音書の冒頭の3節は、神の御子は神と共におられた神です。御子を言と表現したのは、神を私たちに現されるからです。天地創造は、御父・御子・御霊の三位一体の神の御業です。

パウロが、「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです」(エフェソ 1:4～5)と書きましたが、ヨハネは、その計画を受けて、創造の御業と共に、罪に堕ちて霊的に死んだ暗闇の世から、神が選ばれた民のキリストによる救いを示すために、<命>と<光>という表現を、主ご自身の教えから採りました。「世は命であるキリストを認めず民は受け入れなかった」のです(ヨハネ 1:9～12)。

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」(1:14)<肉>という用語は、食肉の意味もあるが、新約聖書ではIコリント8章と黙示録19:17～21くらいしかありません。それを別にすると、まず、「霊と肉」、すなわち「新しい命に生きる人」と「生まれながらの人」の対比の後者の意味で<肉>と言われます。注意すべきことは、私たち信徒の内には死ぬまで腐敗と汚れは

が残るので、その肉に対する霊的な戦いがつづくことを忘れてはなりません。

別の意味は、死んでいる「石の心」に対して、神の言葉に従って生きる命のある「肉の心」を神が与えてくださるといふ、御言葉をエゼキエルは預言しています(36:26～27)。

さらに、神の御子が、人となられたことを「肉をとられた」と表現されています。ここから受肉ということばも生じました。それが1:14の「言は肉となった」の意味です。

そうです、言であり創造主である御子が、人となられて、私たちの間に共に住まわれたのです。すでに、いつかの説教で、あるいは待降節か降誕節の説教でお聞きになっていると思います。「宿られた」とは<天幕(幕屋)を張る(建てる)>という語ですが、主の幕屋は行進する時の順番は真ん中であり、宿営する時はイスラエルの民すべての中央を占めていました。まさに彼らの唯中に主は臨在しておられることを表しおり、インマヌエルのしるしにほかなりません。ここでそれが指し示していた真理、本もののメシアが来臨された事実を、使徒ヨハネは告げているのです。

神様がモーセを通して出エジプトのイスラエルに示された旧約時代の宗教とキリストの来臨とをヨハネは次のように言います。「わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。」(1:16, 17)

<律法>という用語が指しているのは、狭い戒めのことではなく、イスラエルの礼拝と生活のための神の基準、言い換えると旧約宗教のことです。神礼拝に関する祭司職・礼拝者・犠牲奉獻・神殿・祭日などの規定、聖なる民の罪の赦しと汚れからの潔めの規定などは、キリストによって成し遂げられる贖いの御業を指し示し、その御業によって罪は赦され、神の和解によって平和な交わりにいれられる大いなる恵みを保証していました。「父のふところにいる独り子である神、この

方」すなわちイエス・キリストが「神を示されたのです」(1:18)。このキリストをほかにして、神との平和は私たちにありません。

「わたしたちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しなさい。このイエス・キリストに今も、また永遠に栄光がありますように、アーメン」(Ⅱペトロ 3:18)。



香港便り

石井砂恵子

ウェストミンスター日本人教会の皆さん、こんにちは。お元気ですか。香港に引っ越してきて、はや2回目の秋を迎えています。といっても、木々が紅葉するわけでもなく、気温もまだ、25度くらいありますので、“秋”という実感が全くありませんが……。主人以外3人は、元気に暮らしています。すっかりアジアライフにも慣れ、アメリカ生活とは全く違う質の生活も楽しめています。疲れ気味の主人は相変わらず、出張が多く、ほとんど海外にいます。(おそらく、この号が発行される頃、アトランタを訪問中だと思います。うらやましい～。)

私たちは、昨年7月に、遅れて主人は10月にこちらに転勤して来ました。1年過ぎて気がついたことは、香港は、アメリカに比べて、又、日本に比べても、祝祭日の日がものすごく多いということです。中国暦の祭日に加えて、クリスマス、イースター、はたまた、ブッタの誕生日とほぼ毎月何かのお休みがあります。そのせいで、旅行をする人も非常に多いです。今年の旧正月(2月)の休みに旅行に出かけようと、昨年11

月ごろ、旅行社に問い合わせたら、どこの国への旅行も全く空きがないと電話を切られてしまいました。そのため、今年の旧正月は香港で過ごしました。香港の人たちは旅行に出かけ、そのかわり、中国本土の人が香港に旅行に来ており、旧正月の数日間は、いつもの香港と雰囲気が少し変わりました。2月の旅行の為に8月に動き出さないとダメなのだそうです。そのため、今年も、もう来年の休みのために、8月終わりに、マレーシアを予約しました。旅行代金も申し込んだ日に全額引き落とされたのには驚きました。予約金を少し入れて、旅行日の1ヶ月前までに払い込めばいいなんていう悠長なことはできないのです、ここ香港では……。ちょっと旅行するのも、早い者勝ちの競争です。

2月に旅行に行かなかったのが、9月の中秋節のお休みを利用して旅行に行こうと家族の中で盛り上がりました。しかし、調べてみると、9月の季節、アジアの各地は雨季のところが多いのです。(実際、主人は9月に社員旅行でタイのプーケットに行ったにもかかわらず、連日雨、雨、雨で、ずーっとホテルの部屋にいたそうです。しかし、彼にとっては恵みの雨で、疲労回復のために寝まくれたと、神様に感謝していました。)旅行地選びに困っていたとき、茉莉と沙羅が「台湾、台湾、いきたいわ〜ん」と歌いだしたので、即台湾に決定。どちらかという、ネガティブ思考の主人の、「台湾行くの〜?ボク、こないだも行って、又今年も行くねんけど〜。それに台湾もこの時期台風くるで〜。」というコメントを完全に無視して(聖書には『夫に従いなさい』という川田のおじちゃんの大好きなみことばがあることを知りつつも)、台湾へ行ってきました。感謝なことに晴天に恵まれ(翌週大型台風が台湾を襲っていました)、久しぶりの4人での旅行を楽しむことが出来ました。

まず、香港に比べて、街が落ち着いていました。(最近の香港はお金持ちになったメインランドチャイナの資本がたくさん入り、ビジネスチャンスを求める人が以前よりもっともっと増えているのか、街全体がギラ

ギラすぎているように思います。) 18年前に台湾に行ったとき、なんて騒々しい街だろうと疲れを覚えましたが、今回は雰囲気が変わっていて、何かしらホッとさせる街に感じられました。料理は勿論、中国料理全てが揃っていました。私たちは、日ごろ香港でほとんどの中国料理を食べることが出来るので、台湾独自の台湾料理を楽しみました。ものすごく美味しかったです。海産物に恵まれているので、素材の持つ味を生かした独特の料理が出来上がっているのです。しかも、薄味で。又、茶芸館に何度も足を運びました。茶芸館とは、中華菓子と台湾茶を楽しむ中華風喫茶店です。中国茶にも御点前があり、それを習いながら色々なお茶を飲むことが出来ます。お昼のランチメニューがこれまた美味しい。初めての体験でツボにはまりました。念願の茶器をこの旅行で手に入れたので、最近我が家に来られるお客様には、コーヒーではなく、台湾茶を楽しんで頂いています。

故宮博物院も圧巻でした。世界四大博物館の一つといわれているだけのことはあります。よくあれだけの数の至宝を、内戦時に北京から持ち出せたなあと驚きました。中国歴代皇帝たちの至宝がなんと、65万点あるそうです。

もう一つ、台湾での初めての体験が、台湾式シャンプーでした。茉莉と二人で美容院へ行き、シャンプーをお願いすると、座ったままでガシガシ洗い、頭皮マッサージまでしてもらいました。座ったままなのに、シャンプー液が滴り落ちてこない。何で？シャンプーの最後に髪を上引っ張ったら、東京タワーのように毛が立っちゃった。思わず、沙羅が記念写真を撮ってくれました。45分もかけてシャンプーしてもらいました。髪の毛はサラサラ。汗をかいても、髪だけはさらさら。次の日もサ～ラサラ。

主人は入社以来おそらく、台湾へ100回近く出張していると思います。結婚を挟んで2年間駐在もしていました。ところが台北でこんなにゆっくり観光をしたの

は初めてだそうです。3泊4日でしたが、主人のおかげで(観光はしたことが無いが、台北市内の道をよく知っている+北京語が少し喋れる)、時間を有効に使えて、楽しい旅となりました。アメリカにいたときは、国立公園を巡って自然のすごさ、それを創られた神様のすごさを体験していました。アジアに来たら、こちら独特の場所や文化があります。チャンスがあれば、アジア各地を廻って見たいと思っています。

茶芸館とシャンプーにはまった私は、もう1度台湾に行って見たいと思っていますが、他の魅力的な場所にも心引かれるのでいつになるでしょうか……。主人は、旅行から帰った翌々日、再び台湾へ出張へ出かけました。



*夏の異常気温が尾をひいて秋口になってもかなり気温が高い日が続いたせいでしょうか。冷え込みがなかったので紅葉の時期がぐ～んと遅れました。今頃(11月半ば)になってやっと”秋を彩る“の歌のようになっています。

*もう一つ Ga. は異常気象の影響を受けて水不足が深刻になってきています。夏から雨らしい雨が降らないのです。もう Lake Lanier の水も底を尽きそうだそうです。今は芝生に水を撒くことも、車を洗うことも禁止です。もしみつかったら2,000ドルの罰金が科せられるとのこと。Ga. FL, AL の三つの州の間では水源をめぐる争いが続いているということですが、本当に水が涸れてしまったら、どうなるのでしょうか。先日のテレビでパーデュー知事が雨を降らせて下さいと祈る姿が放映されていましたが、あれは州議事堂の中でのことだったのでしょうか？公の

場での祈りが禁じられていると言ってもやっぱりここは“バイブルベルト地帯”です。雨を乞う祈りには誰も文句を言えないのではないのでしょうか。神様どうぞ、あのエリヤの時のように大雨を降らせて下さいと真剣に祈る必要を感じるこの頃です。

「しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。」(列王記Ⅰ 18:45)

*山崎先生より間を置かずに「ペテロの生涯」ノートに続き「イエス・キリスト・・・ヨハネ福音書による」の原稿が送られてきました。さっそく今月号から掲載を始めます。執筆の労をとって下さる先生に心から感謝致します。これからしばらく、皆さんで御一緒にイエス様から愛された使徒ヨハネと共にイエス様のお側近くを歩ませて頂きましょう

*「30周年」で明けた2007年も早いものであと一ヶ月で幕を下ろそうとしています。教會的にも個人的にもたくさんの祝福を頂いた年となりました。この感謝祭には多くの感謝の捧げ物を携えて御前に出たいものです。次週(この小枝が発行される日)の礼拝で美幸ハム姉とアマカちゃん、カイト君が洗礼を受けます。契約信仰に立つ私達の教會では子供の洗礼も行います。イエスさまは幼い子供を受け入れて下さいました。子供が神の国から除外されることはありません。使徒の働き16章33節に「彼とその家の者全部がバプテスマを受けた」と記されていますが、「全部」の中には子供も含まれている筈です。教會の子供達全てに祝福がありますように！！

*チキン駄目人間の石井俊平ちゃんが(香港の支社長をつかまえて俊平ちゃんとは何ですか!)当教會を去られた時、<チキン解禁バンザーイ>と歡喜に沸いたキッチンでした。それがこともあろうに、よりにもよって<感謝祭特別チキンディナー・ドラムスティック two for one person の日>出張で来られるというではありませんか!冗談でしょう!!

そこで、キッチンのスーパーバイザーとディレクターの度重なる重役会議が行われ、<チキンコケッココ行結構>採決となりました。しかし、我らの愛する俊平ちゃんを悲しませるにはしのびないと、そこはそこ、それなりの配慮がなされつつあります。恐らく俊平ちゃんは感涙にむせぶことでしょう。折りしも留守を守る<嫁さん>の砂恵子さんからのお便りが<お便りコーナー>に届いています。じっくりとお読み下さい。

*福迫先生お帰りなさい!!立派な牧師になられた先生の力強いメッセージを伺いながら、10数年前の<福迫兄>を知る私たちは感慨無量でした。神様のなされることは素晴らしいの一語に尽きます。福迫先生を知る者は今は数少なくなりましたが、色々な思い出話に花を咲かせました。当時教會にいた3人の大食漢の1人が福迫先生でした。でも今は、あまり召し上がらないそうです。というの”糖尿病予備軍“に属しているので、特に炭水化物は少なめに、を心がけておられるとのこと。福迫先生ならずとも、最近はや備軍、の方々が結構おられるようです。はたまたすでに正規の軍に入隊してしまった方々もおられます。どちらさまもどうぞ食生活には十分にお気をつけになって下さい。(先生には真里夫人との間に3男、1女がおありです。ご両親の伝道を助ける素晴らしい子供さんたちです。)

*しばらく途絶えていた人形劇が、寺内智子さんの御指導のおかげで、今年のクリスマスにはみごとに甦ります。文字通り<細工は流々、仕上げを御覧じろ>です。みなさん、どうぞお楽しみに。演出家、録音技術者、舞台装置施工家、人形作り専門家、人形使い、そして声優たち、いやはやズバリと並んだベテラン揃いです。あっと驚くこと間違いありません。12月23日夜上演の運びとなります。入場無料です。どうぞ今からお知り合いの方々、子供さんたちに声かけてお誘い下さい。

(武田 牧 実)

*最近、神様が自分では開けなかった扉を開いてくれました。というか、たぶんずっと開いていたんだろうけど、自分からは入らなかった扉に、気づいたら入っていました。そこに扉があったことは、前から知っていたんだと思います。でも入ろうとしなかったんですね。。そんな不信仰な私に、神様は不思議な形で働いて下さり、気づいたら何だか、扉の中にいました。。抽象的な表現ですが、でも神様のなさることは、本当にすごい。時にかなって美しい。生意気で、自分の力に頼ろうとする私をも、神様はやさしく導いて下さり、いろんな経験を通していろんなことを教えて下さる。神様の愛と哀れみに心を打たれます。

*忙しい中であって、神様を見上げ、御言葉に触れ、祈り歩むことの難しさを思います。慌ただしく過ぎる毎日の中であって、イエス様から目を離さずにいることは、本当難しいですね。絶えず祈ることの大切さを思います。もう今年も残りあと1ヶ月。残りの2007年。主から与えられている時間を大切に、喜んで過ごしたいです。(村 林 友 子)

*今年最後の小枝となりました。あと約一月で2007年も終わりですね。一年過ぎるのが何と早いことでしょう。今年のはじめに立てた目標を思い起こしてみると。。**聖書通読**…×ほとんど読み終われませんでした。一日のうちで静まることの出来る時を探し、**神様と交わりの時をもつ**…今年もあと4ヶ月というときに、ようやく一定時間に続けることができるようになりました。5分、10分の短い時間ですが、朝一番にお祈りして聖書を読む。息子が起きる前か、起きても「ママの聖書」と言って持ってきてくれたりいい子で待っていてくれて感謝！**息子と一緒に“子どもの聖書”**を読み、一日の感謝を思い起こす…子どもが夜寝る前に聖書を読む。これはほとんど毎日続けることができました。そしてもう3回通読

終わりました！！子ども聖書は新旧合わせてもとってもとっても短いので…。感謝に関しては、はじめは3人でそれぞれ一日を思い起こして感謝することをあげていたのですが、いつの間にか息子のだけになってしまいました。「今日は○○ちゃんと一緒に遊んで楽しかったね。～おいしかったね。神さまにありがとうございます！」等という語りかけから、「今日は神さまに何をありがとうする？」に変わり、「○○ちゃん、(おじちゃん、先生などその日に会った人の名を言う)ポール(で遊んだ!)」との答えが返ってきます。小さいので、まだ全部分かってないとは思いますが、来年も続けていき、イエス様を愛し、感謝する子どもに育って欲しいと願います。**礼拝に遅刻しない**…最初はがんばっていたのですが・・・来年は遅刻しないようお祈りしてがんばります。**今年英語をがんばる**…×全くでした。せめて英語のテレビを見て耳を慣らそうと思ってもつつい誘惑に負け、子どもが寝たあと日本のドラマを見てしまったり。韓国ドラマにもはまってしまったり。ろぼっこの間でもドラマの貸し借りが行き来し、子どもの寝た後の楽しみとして、かなりみんなはまってしまっています！！英語・・・自分の努力次第ですが、何かいい上達方法があったら教えてください！

*息子が10月末で2歳になりました。この2年間はあっという間でした。妊娠中のこと、出産の時のこと、出産後から今までの間を思い起こしました。結婚して5年目で子どもが与えられ、家での水中出産ということもあり、特に皆さんの心配とお祈りと手助けがあったと思います。あんなに大勢の人に囲まれて出生する赤ちゃんは、そうそういないのでは？改めて数えてみると、生まれた日に15人の人に会っていたのです。ここまで神さまに守られたことや、皆さんのお祈りと手助けに改めて心から感謝します。T e r r i b l e 2に突入しました。もうすでにその気があるかもしれません。しつけに関して、「もっとこうしたほうがいいんじゃない？」とのお察しがあ

りましたらどうぞ遠慮なく教えてください。

*ずっとアパート暮らしでしたが、今年の夏に家が与えられたこと感謝です。買ってから気がついたのですが、大きな桜の木が3本あるので、春には花見ができるなあと、とても楽しみです。10月に両親が3週間滞在し、数ヶ月前にリタイアした父が、かなりがんばって、畑作り、花壇作りをしてくれました。リタイアしたらやりたいことの一つに、畑作りと思ってたようです。まさか娘のいるアトランタですとは思っていませんが。。私たちも、畑で何を育てようか、花壇に何を植えようかと、夢が広がります。

*同時に主人は仕事をやめることになりました。はじめに聞いたときは、神さまの御心かどうか分からなかったのですが、心配しましたが、時だったと信じ、未だに新しい場所は見つかりませんが平安の中で過ごせること、必要が満たされていることに感謝しています。ぎりぎりの生活をしていると、不思議な方法で必要が満たされたりと、神さまが養ってくださることを肌で感じています。これから主人の仕事場がどんな所が与えられるか楽しみです。

(山本美紀)

レイラニちゃんと一緒に日本に行ってみられる未華子さんへ。お元気でしょうか？私達編集係みんな元気にしています。貴女がお留守なのでちょっと心細かったですが、何とか力を合せてここまで漕ぎ着けました。今月は多くの方々が投稿して下さいましたので助かりました。本当に感謝しています。どうぞ御実家で楽しい時をお過ごしになって早く戻ってきて下さい。お祈りしています。(留守番3人)



主に感謝して、御名を呼び求めよ。

そのみわざを国々の民の中に知

らせよ。主に歌え。主にほめ歌を

歌え。そのすべての奇しいみわざ

に思いを潜めよ。(詩篇 105:1-2)